

## 【1】福島原発事故12年の経験から学ぶ

### —当時小中学生だった若者達との対話から(第2回)—

Lessons from 12 Years of Experience after the Fukushima Nuclear Accident : From the Dialogue between Young Victims and Researchers

## 【2】フクシマの“いま”を知る

### —自然科学と人文社会科学との対話から:教育を軸に考える—

Understanding Fukushima Today: From a Dialogue between Natural Sciences, Humanities and Social Sciences. Rethinking Education.

### [11月18日(土)] 大隈記念講堂 小講堂

[ご挨拶] 10:00 開会の挨拶 : 西村昭治

(早稲田大学人間総合研究センター所長)

[第1部] 10:05~

①企画趣旨・諸注意:平田修三(15分)

(大会実行委員長・仙台青葉学院短期大学准教授)

②避難経験のある若者5名による発表(各20分)

③早稲田大学人間科学部学生による

事前インタビュー調査結果・考察(各10分)

④本シンポジウム企画教員5名によるコメント(各8分)

(扇原淳, 小島隆矢, 多賀努, 日高友郎, 明戸隆浩)

※1組目 10:20~11:00, 2組目 11:00~11:40

3組目 11:40~12:20, Lunch Time 12:20~13:20

4組目 13:20~14:00, 5組目 14:00~14:40

[第2部] 14:45~ 基調講演

話し手:佐藤茂紀(演出家・劇作家・高校教諭)

聞き手:吉田千亜(フリーライター・ノンフィクション作家)

「演劇から考える原発事故の十二年:高校生たちと作る」

コメンテーター:辻内悠(応用演劇プラクティショナー)

[第3部] 16:00~ パネルディスカッション:辻内琢也(司会)

被災当事者5名, 吉田千亜, 金智慧, 平田修三

①テーマA:原発事故後12年の経験の意味・意義を考える

②テーマB:若者達による日本社会・国際社会への提言

[第4部] 17:20~ シンポジウムへのコメント

村上信夫(茨城大学人文社会科学部教授)

萩原裕子(WIMA招聘研究員・臨床心理士・

震災支援ネットワーク埼玉SSN心理相談チーム代表)

[ご挨拶] 17:50~ 閉会の挨拶:金智慧

(大会事務局長・早稲田大学人間総合研究センター次席研究員)

### [11月19日(日)] 大隈記念講堂 大講堂

[第1部] 10:00~ 基調講演

影浦峯(東京大学大学院教育学研究科教授)

「研究不正・学界・メディア:宮崎・早野論文をめぐる問題をを中心に」

[第2部] 11:10~ リレー講演(各30分)

①小豆川勝見(11:10~)自然科学者(環境分析学)

「線量測定と住民とのやりとりー大熊町を例に」

②浅沼=プリス・セシル(11:45~)人文社会科学者(都市社会学)

「浪江ー原発事故後の回復力レジリエンスの

世界的モデルとして映し出される田舎の村」

③鴨下祐也(12:20~)自然科学者(バイオ機能応用学・バイオ

プロセス工学/ものづくり技術・機械・電気電子・化学工学)

「科学者そして当事者として体験し考え続けてきたこと

ー事故前, 事故後, そして“いま”」

<Lunch Time 12:50~13:50>

④日高友郎(13:50~)人文社会科学者(社会心理学)・自然科学者(衛生学)

「福島原発事故による長期避難後の帰還困難区域への

帰還に関する懸念:飯館村長泥地区住民へのインタビューから」

⑤辻内琢也(14:25~)人文社会科学者(文化人類学・医療人類学)・自然科学者(心身医学・災害精神医学)

「過剰な不安ではなく正当な心配である

:放射線の健康影響に対する科学リテラシー」

⑥明戸隆浩(15:00~)人文社会科学者(社会学・多文化社会論)

「計量テキスト分析をふまえた『復興』概念の批判的検討」

[第3部] 15:40~ パネルディスカッション:増田和高(司会)

パネリスト(小豆川, プリス, 鴨下, 日高, 辻内, 明戸)

「フクシマの“いま”を知るー自然科学と人文社会科学との対話から:教育を軸に考えるー」

[第4部] 17:20~ シンポジウムへのコメント(各10分)

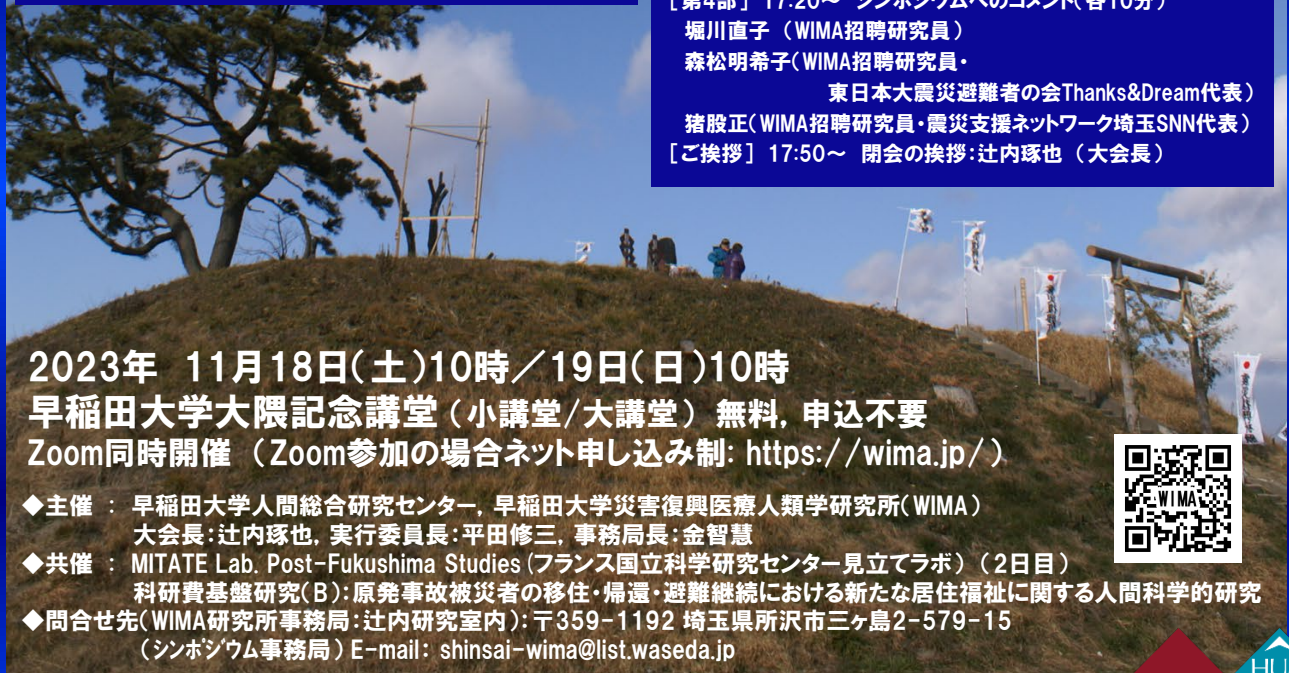
堀川直子(WIMA招聘研究員)

森松明希子(WIMA招聘研究員・

東日本大震災避難者の会Thanks&Dream代表)

猪股正(WIMA招聘研究員・震災支援ネットワーク埼玉SSN代表)

[ご挨拶] 17:50~ 閉会の挨拶:辻内琢也(大会長)



2023年 11月18日(土)10時/19日(日)10時

早稲田大学大隈記念講堂(小講堂/大講堂) 無料, 申込不要

Zoom同時開催 (Zoom参加の場合ネット申し込み制: <https://wima.jp/>)

◆主催: 早稲田大学人間総合研究センター, 早稲田大学災害復興医療人類学研究所(WIMA)

大会長:辻内琢也, 実行委員長:平田修三, 事務局長:金智慧

◆共催: MITATE Lab, Post-Fukushima Studies(フランス国立科学研究センター見立てラボ)(2日目)

科研費基盤研究(B):原発事故被災者の移住・帰還・避難継続における新たな居住福祉に関する人間科学的研究

◆問合せ先(WIMA研究所事務局:辻内研究室内):〒359-1192 埼玉県所沢市三ヶ島2-579-15

(シンポジウム事務局) E-mail: [shinsai-wima@list.waseda.jp](mailto:shinsai-wima@list.waseda.jp)





# 早稲田大学災害復興医療人類学研究所

## Waseda Institute of Medical Anthropology on Disaster Reconstruction

<https://wima.jp/>



## フランス国立科学研究センター見立てラボ MITATE Lab. Post-Fukushima Studies

<https://mitatelab.cnrs.fr/>

### ■会場のご案内■

#### 早稲田大学大隈記念講堂

会場住所: 東京都新宿区戸塚町1丁目104  
(地下鉄東西線「早稲田駅」徒歩5分、都営バス「早稲田大学正門」徒歩1分、都電荒川線「早稲田」徒歩5分、JR・西武線「高田馬場駅」徒歩20分)



### ■WIMA研究所メンバー■

#### (◇本シンポジウムのコメンテーター&パネリスト)

【名誉顧問】 菊地靖 (早稲田大学名誉教授, 開発人類学)

【顧問】 根々山光一 (早稲田大学名誉教授, 発達行動学)

#### 【所長】

◇辻内琢也 (早稲田大学人間科学学術院教授, 医師, 文化人類学・医療人類学・心身医学・災害精神医学)

#### 【研究所員】 (\*運営委員)

◇扇原淳\* (人間科学学術院教授, 社会医学)

◇小島隆矢\* (人間科学学術院准教授, 建築環境心理学)

桂川泰典 (人間科学学術院准教授, 臨床心理学)

熊野宏昭 (人間科学学術院教授, 医師, 行動医学)

◇金智慧 (人間総合研究センター次席研究員, 臨床心理学, 医療人類学)

#### 【招聘研究員】

リチャード F. モリーカ (ハーバード大学教授, 医師, 難民トラウマ研究所HPRT所長)

安田常宏 (マサチューセッツ総合病院, 医師, 心臓核医学)

◇多賀努 (東京都健康長寿医療センター研究所研究員, 社会学・老年学)

◇増田和高 (武庫川女子大学文学部准教授, 社会福祉学, 地域福祉学)

◇岩垣穂大 (金城学院大学人間科学部専任講師, 社会福祉学, 精神保健福祉学, 社会医学)

◇平田修三 (仙台青葉学院短期大学准教授, 発達心理学・児童福祉学)

◇日高友郎 (福島県立医科大学医学部講師, 衛生学・社会心理学)

仲佐保 (国際保健協力市民の会SHARE共同代表, 医師)

関谷雄一 (東京大学大学院総合文化研究科教授, 文化人類学・開発人類学)

土田マリサ (慶応義塾大学精神神経科, 医師)

北村浩 (政治経済研究所主任研究員, 政治学)

桂川秀嗣 (東邦大学理学部名誉教授, 原子核物理学)

◇猪股正 (震災支援ネットワーク埼玉代表, 弁護士)

中川博之 (震災支援ネットワーク埼玉, 司法書士)

◇萩原裕子 (震災支援ネットワーク埼玉, 臨床心理士)

佐藤純俊 (全国福島県人友の会代表, 社会福祉主事)

◇明戸隆浩 (大阪公立大学准教授, 社会学・多文化社会論)

◇堀川直子 (元福島大学客員研究員, 社会人類学)

◇森松明希子 (東日本大震災避難者の会Thanks&Dream代表)

### ■基調講演■ 佐藤茂紀 (Shigenori Satou)

プロフィール 福島県出身。

演出家・劇作家・高校教諭

日本演出者協会理事

日本劇作家協会会員

福島県高校演劇連盟理事

▶福島県郡山市を拠点とする劇団ユニット

ラビッツを結成。同劇団主宰, 脚本・演出に携わる。高校演劇部顧問。劇団公演, 高校演劇のほか, 各種公共事業においても脚本, 演出を担当。震災後は, 演劇の力をもって今の思いを伝えようと, 福島県産演劇25作品を発表。

#### ■主な作品■

『この青空は, ほんとの空ってことでいいですか?』(2011)

『劇王X~天下統一大会~』東北代表(2012)

『奥羽行進曲』(2013)

『あれからのラッキー☆アイランド』(文化庁委託事業, 2015)

『ばけ〜ション★プリーズ』(南会津町主催事業, 2017)

『ほんとの空のその向こう』(第69回全国植樹祭, 2018)

『颯2021』(文化庁委託事業), 他多数。



### ■基調講演■ 吉田千亜 (Chia Yoshida)

プロフィール 埼玉県出身。立教大学文学部卒業。出版社勤務を経て, フリーライター。主に原発事故の取材を続けている。

原発事故当時, 不眠不休で続けられた地元消防の活動と葛藤を, 一人ひとりへの丹念な取材にもとづき描き出した『孤星 双葉郡消防士たちの3・11』にて, 第42回講談社・本田

靖春ノンフィクション賞(2020), 日隅一雄・情報流通促進賞2020大賞, 日本ジャーナリスト会議(JCJ)賞を受賞。

#### ■主な書籍■

『ルポ母子避難: 消されゆく原発事故

被害者』(岩波新書, 2016)

『その後の福島 原発事故後を生きる人々』

(人文書院, 2018)

『孤星 双葉郡消防士たちの3・11』

(岩波書店, 2020)



### ■基調講演■ 影浦映 (Kyo Kageura)

プロフィール 北海道出身。東京大学教育学部, マンチェスター大学科学技術研究所卒。現在, 東京大学大学院教育学研究科・総合教育学専攻生涯学習基盤経営講座・図書館

情報学研究室 教授。Ph.D(マンチェスター大学), 修士(教育学)。専門は言語とメディア。情報学, 言語学, 計量言語学, 翻訳学の分野の国際ジャーナル・学会で幅広く活躍。日本図書館情報学会賞(2001), 言語処理学会第12回年次大会優秀発表賞(2007), 日本学術振興会理事長表彰(2012), A-LIEP

Best Paper Award (Research-Theoretical, 2021)。

#### ■主な著書・訳書■

“The Quantitative Analysis of the Dynamics and Structure of Terminologies” (Amsterdam: John Benjamins, 2012)

『ソシール: 一般言語学講義: コンスタンタンのノート』

(東京大学出版会, 2007)

